

「日本介護福祉士会の取組に対する認知度・評価に関する調査」結果の概要と総括

2024年4月9日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

日本介護福祉士会の取組について、会員の皆さまに見えるものとなっているか、実感されるものとなっているか、認知度や評価を把握することを目的に、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

【主な結果の概要】

日本介護福祉士会が行っている取組のうち、20の取組について「どのくらい知っているか（認知度）」、「どのように感じているか（評価）」、また、日本介護福祉士会の取組を実感する機会の増減を伺った。

1. 研修等や認定介護福祉士については、よく知られている

よく知られているものとして、「全国大会・日本介護学会」や「認定介護福祉士に関する事業」は7割以上の方が「知っている」と回答している。「知っている」と「少し知っている」の合計が9割近くになった取組はこれらのほか、「生涯研修体系」や「リーダー研修会（講師養成研修）」であった。

2. 発災時の災害救援事業が特に評価されている

「発災時の災害救援事業」が、「評価する」と回答した方が6割、「少し評価する」との合計でも9割近くになり、最も評価されている。「評価する」と「少し評価する」の合計が9割近くになった取組はこのほか、「全国大会・日本介護学会」、「Webサイト『にほんごをまなぼう』」、「介護職種の技能実習指導員講習」、「実践現場のための専門誌『介護福祉士』」であった。

なお、新たな取組である「デジタル・テクノロジー基本研修」や「介護福祉士の本（宝くじ協会助成金による広報誌）」、「こども霞が関見学デーへの出展」、また、必ずしもすべての方が対象とならない【外国人介護人材のための資格取得支援】に関する取組や「研究倫理審査」などは、「あまり知らない」や「知らない」の回答が他の取組に比べると多いものの、一定の評価を得ていることが読み取れる。

3. 取組を実感する機会が増えたと感じている方が約半数である

日本介護福祉士会の取組を実感する機会については、令和4年度と比べて「変わらない」と感じている方は45%であったが、「とても多くなった」、「多くなった」と感じている方の合計は47%であった。

【総括】

- ・ 日本介護福祉士会の運営や取組に対して関心を持ってくださっている運営サポーターの認識であることには留意する必要があるものの、各取組についての認知度や評価を確認することができた。
- ・ 職能団体の使命を果たすため、様々な取組の充実・強化に向けた検討や推進を図っている途上であり、十分とは言えないまでも、日本介護福祉士会の取組を実感していただく機会も少しずつ増えているようである。引き続き、各取組に丁寧に向き合い、より良い取組としていくための検討や周知を行ってまいりたい。
- ・ 職能団体として存在意義が感じられるような取組が行えているか、会員の皆さまに見えるもの、実感されるものとなっているかを把握し、取組を振り返るためにも、今後も、同様の調査を行うことが必要である。